

【第①回】

こんなに変わる物件イメージ、効果バツグン写真術

部屋を広く見せる5つのポイント

物件を消費者にアピールするには、イメージ訴求が効果的であることは皆さんよくご存知だと思います。そのため「狭い部屋を広く見せる写真を撮りたいけど、うまく撮れない」という声をよく耳にします。今回は、室内を広く見せる撮影テクニックを中心に、写真を使った効果的な物件プレゼン術をお教えいたします。

POINT 1 広角レンズを使用する

通常のデジカメなどでは、壁ぎりぎりまで下がって撮影しても室内のごく一部しか入らなかったり、狭く見えたりしますよね。しかし、広角レンズを使用して撮影すると、遠近感が強調され、部屋が広〜く見えます。



POINT 2 フラッシュを使用しない

撮影時はフラッシュを使用してはいけません。フラッシュを使うと、手前は明るく奥は暗くなり、薄暗い印象になります。日中に撮影することをお勧めします。撮影用ライトを使用するのもいいですね。

POINT 3 カメラを固定して撮影する

カメラを手持ちで撮影すると、シャッターを押す際に必ず手ぶれが起きてしまいます。三脚などで固定して、セルフタイマーを使用し撮影しましょう。



POINT 4 壁は一面だけを写す

狭い部屋の両壁が写っていると、部屋の狭さが際立ってしまいます。そこで片方の壁が入らないように撮影することで、その部屋が横に広くつながっている感じを持たせ、空間の広がりを感じさせることができます。天井を写さないことも、天井高な部屋をイメージさせます。

POINT 5 丈の低い家具を置く

家具を配置して撮影する際、丈の高い家具は圧迫感を与え、余計に部屋が狭く見えます。

なるべく丈の低い家具を置くことで空間の広がりを感じさせることができます。壁に鏡を多く取り付けておいても同じ効果があります。



物件だけでなく周辺環境もイメージさせる

部屋の写真以外にも、周辺環境の写真を数多く掲載することも非常に効果的です。お客様は、物件に興味を示したら、次はそこに住んだときのことをイメージしますので、生活の利便性をアピールできる写真を多用することが効果的です。単身者向け物件であれば、コンビニ、レンタルDVDショップなど、ファミリー向け物件であれば、教育施設や医療施設などです。施設までの距離や分数、営業時間なども掲載するとより良いでしょう。

物件所在地を中心とした周辺地図に各施設の位置がわかるように場所をプロットし、その場所をクリックすると、施設の写真が表示されるような見せ方も効果的です。

会員の皆さんがお使いになっているZeNNETでも、写真を登録することができます。今回紹介した撮影術をぜひ活用してみたいかがでしょうか。